

## 新型コロナ感染症はデジタル化への黒船か？

お上（行政）はデジタル化を叫ぶが、医療の現場の意見をきこうとはしない。一方、現場はお上からの指示を待つことが主体であり自らデジタル化を強くは推進していない。大学生は web 掲示板でお互いの連絡をし、小中学校の父兄の連絡や、食事会の出欠把握もネット上の調整アプリを使われることが多い。誰もファックスなどを使用していない。

長く変えられなかった制度が、外圧によりいとも簡単に変えられたことを日本では、「黒船到来」と表現される。詳しく歴史をみていくと、黒船到来により江戸時代が終焉したのは事実とは異なるが、そのような表現を使う。

最新の知見に関する講演会と講演後の懇親会での医師仲間との雑談、地域での勉強会における自分たちの経験した症例呈示は私にとって必須の生涯教育のツールであった。しかし、新型コロナ感染症が原因で2020年3月くらいから、上記のような講演会や勉強会ができなくなった。

4月に緊急事態宣言がなされると、それは長期におよぶのではないかと思っただ。しかし、自分たちの知識を高めていきたい。それには web 形式の勉強会を自分たちで習得・実施するほかに選択肢はなかった。たぶん新型コロナ感染症がなければ、「習得するのが面倒」ということでこのような勉強会を始めることはなかったであろう。

無料のズームを自分自身で試行錯誤しながら、とりあえず、仲間をあつめてテレビ電話として試してみた。その後、毎月行っていた西宮市医師会の循環器勉強会をズームで再開した。加えて、当方に研修に来る予定であった学生たちとも勉強会を始めた。現在私は、月に6～8回のズームを用いた勉強会を主催し、同じくらいの数の講演会を聴講している。Web 勉強会に変えた現在では、参加者は西宮だけでなく北海道や九州にも及んでいる。

ズームでは、演者のスライドを各々の PC で見ることができる。発表者からポインターで指示する以外に、参加者からも呈示された図についてマーカーペン機能で部位を指摘して質問できる。有料版にすると、投票機能により、学生、研修医、10年以上など参加者の分布や、提示され議論されている症例での治療について参加者ならどんな治療を選択するかについて、たちどころに参加者間で共有できる。そして終了後、録画していた講演内容を参加できなかった人たちも自由に閲覧できる。

私は最近まで、医師会の週報にでていた日医生涯教育講座開催情報のタイトルについては、近場である西宮しかみていなかった。しかし、今では兵庫県全部のタイトルをみて、興味があるところには参加できるように記載されてある担当 MR に連絡している。全国の日医生涯教育講座開催情報を HP で閲覧でき、記載された URL から簡単に聴講できるようにするのはそれほど難しいことで

はないだろう。これは、現場である医師会から自発的に行うデジタル化である  
と思う。

伊賀幹二  
伊賀内科・循環器科  
2021.2.13